

抗インスリン抗体により、インスリンとCペプチド測定値乖離をみとめた症例

インスリン測定値とCペプチド測定値が乖離した症例

◎山田 依里¹⁾、小澤 陽¹⁾、仁木 裕子¹⁾、宇納 英幸¹⁾、板井 萌夏¹⁾、吉野 直美¹⁾、飯沼 由嗣²⁾、古市 賢吾³⁾
金沢医科大学病院¹⁾、金沢医科大学 臨床感染学²⁾、金沢医科大学 腎臓内科学³⁾

【はじめに】 インスリンは膵臓のランゲルハンス島β細胞で一本鎖のプロインスリンとして合成され、その後インスリンとCペプチドが1:1の等モル比で分解される。

今回糖尿病の既往があり、インスリンを投与している患者でインスリン測定値とCペプチド測定値が乖離した症例を経験したので報告する。

【対象】 対象患者は、20XX年4月に糖尿病の管理のため他院に入院中、洞不全症候群による意識の消失を認めた。ペースメーカー適応の有無について精査目的に同年5月に当院の循環器内科へ紹介となった。夕食前にインスリン製剤のグルルギンを皮下注射していた。

【機器・試薬】 インスリン（院内測定）：機器はアボットジャパン（株）のARCHITECT i1000SR、試薬はアーキテクト・インスリン。

Cペプチド（外注）：機器は富士レビオ（株）のルミパルスL2400、試薬はルミパルスプレストCペプチド。

インスリン抗体（外注）：機器は日本レイテック（株）のγカウンター（ARC-8010）、試薬はインスリン抗体「コ

スミック」。

【結果】 採血結果、各項目の基準値を表に示す。

	測定値	基準値
インスリン	1134.1 μIU/mL	16 μIU/mL 以下
C-ペプチド	1.19 ng/mL	0.61～2.09 ng/mL
グルコース	99 mg/dL	73～109 mg/dL
インスリン抗体	50.0 U/mL 以上	0.4 U/mL 未満

【考察】 インスリン投与中の患者に高頻度でインスリン抗体が存在し、それに起因する非特異反応が免疫学的測定値に影響を与えることは知られている。今回、指導医と相談しインスリン抗体による偽高値の可能性を主治医へ連絡、インスリン抗体測定へと繋がった。今回の症例のインスリン抗体は50.0 U/mL以上と異常高値であり、インスリンとして測りこんでしまったため偽高値を示したと考える。インスリン投与に影響のないCペプチド測定の重要性を再認識させる症例であった。

連絡先：076-286-3511 内線 25334